

第27回 特別対談企画

「歩歩是道場」。日々のすべてを

自分を磨き、経営を磨くきっかけに

枘野俊明氏

曹洞宗 徳雄山建功寺住職／庭園デザイナー／多摩美術大学環境デザイン学科教授

真宗王国と呼ばれるほど、石川県は今も浄土真宗が盛んな地域ですが、室町期に同宗派が当地で拡大する以前、鎌倉期に加賀・能登で先に根を張ったのは曹洞宗でした。本紙読者の皆様の中でも案外、自分の家は曹洞宗という方は少なくないはずですが。

今回は、神奈川県横浜市にある曹洞宗の寺院、徳雄山建功寺を訪ね、ご住職を務める枘野俊明さんにお会いしました。枘野さんは僧侶としての勤め、修行活動、講演活動に精力的に取り組み、さらには庭園デザイナーとしても活躍されています。

枘野さんには、いくつかの禅の言葉を紐解いていただきながら、経営者があるべき姿のヒントをたくさんいただきました。知的で含蓄ある言葉の数々に、私も「なるほど」と頷くことの多い対談となりました。

読者の皆様が経営者として、また一人の人間として、自身を磨いていく上で参考になる内容かと思えます。なんらかのきっかけにしていたければ幸いです。

恵まれた恩師との出会い

枘野 二住職は著名な庭園デザイナーとしての横顔も持ち、多摩美術大学環境デザイン学科の教授も務められています。さかのぼると、玉川大学農学部で学ばれていて、かなり異色の経歴です。



私どもの庫裡と客殿を建て直そうという話がお檀家さんから持ち上がり、庭もできる範囲で整備をしたらしいのではありません。ご縁があったお願いだったので、先生でした。

異色中の異色でしょうね（笑）。私が小学校高学年の時に、先代住職である父と母に連れられて京都に行く機会があり、龍安寺さんや大徳寺塔頭の大仙院さんに伺い、あまりにもきれいな庭にびっくりしました。そこで、お寺というのが、こういう美しいものがなければいけない。将来、私どもの寺にも兼ね備えられるようになったらいいなという漠然たる夢を持ったのがきっかけです。

枘野 そうです。その後、地元の公立の中学に入ったのですが、たまたま中学二年時の担任の先生が、玉川大学の教育学部の卒業生で、私がこういうことに興味があって、好きなのだと、このことを知って、「お

少年期に萌芽があったわけですね。

枘野 農学部は庭に使う植物については教えてくれますが、きれいな庭をつくるという授業はなかった。

枘野 では、独学で庭園デザインの知識を深められたのですか？

枘野 はい、高二の時に、後に私の恩師となる造園家の齊藤勝雄先生との出会いがありま

削ぎ落として真理を露わに

生まれ育った建功寺が禅宗のお寺だったということも関係しているんですね。

枘野 昔、禅では修行として会得した自分の心の状態を何らかの手法で表現しようとしていた。文学が好きなら漢詩、それを得意とする人達を「五山僧」といいます。一方、絵で表現したいという向きは墨絵をやって、その人たちは「画僧」というのです。私のように立体三次元が好きだという人は、皆、庭を手がけました。その人たちを「石立僧」といいます。石を立てる僧です。

枘野 有名な夢窓疎石は庭が好きで、天龍寺や西芳寺の作庭に携わっています。

枘野 やはり関連性はあるのですね。ものすごく大きいです。禅の美意識は、ものを削いで、削いで削ぎ落とすという、削ぎ落とすことによって、一番大事な真理というものが露わになって、輝いてくる。そういうものを感じられる空間をつくらうということ、禅の庭が生まれました。



枘野 ものすごく大きいです。禅の美意識は、ものを削いで、削いで削ぎ落とすという、削ぎ落とすことによって、一番大事な真理というものが露わになって、輝いてくる。そういうものを感じられる空間をつくらうということ、禅の庭が生まれました。

もう一人の自分に問い続ける

経営者の仕事は、ヒト・モノ・カネといった貴重な経営資源を生かすことです。より詳細に言うと、

- ① 自分の仕事の魂の部分。次の時代につないでいく。
② 自分の仕事の悪いのかを問われているか。
③ 自社の事業が、世の中に役に立っているのかを問い続けていく。

枘野 削ぎ落として、そのために経営者自身は何をしなければいけないかというところ、会社を磨く、自分の仕事を磨く、自分自身を磨く、この三つです。

枘野 これは結局、経営者の生き方が反映される部分かと思えます。

枘野 「坐禅」という字があります。「坐」は「つ」の「人」という字の下に「土」を書きます。片方の「人」は今の自分で、世の誘惑や執着にとらわれない部分があります。もう一方の「人」は、「本来の自己」と禅宗では説明します。一点の汚れもない清らかな心を持つという。今の生き方はこれだけいいのか、こういうこと

枘野 をやるうとしていていいのかということ、静かに坐って問い続けること、これが坐禅の「坐」です。ですから、坐禅がおっしゃられたように、これが本当に会社の経営を磨いていくことになるのか、社会の役に立っているのか、社会の役に立つ下などには聞けなくて、自分心の中のもう一人の自分に聞くしかないのです。

枘野 今の若い人に、私が時々言うことがあります。「大きい会社がいよいよ私は全然、思わない。それより、入った会社が重要だよ」と。

枘野 枘野 二住職が齊藤勝雄さんに出会われたように、そういう出会いがあれば、生き方が職業観も変わってくるのでしようね。

枘野 ええ、そう思います。少し禅宗に関する質問をさせていただきます。曹洞宗と臨済宗、黄檗宗の三つが禅宗としてよく知られていますが、そのルーツや相違点について教えてください。

枘野 曹洞宗と黄檗宗のお話をします。黄檗宗も実は中国では臨済宗です。違いは日本に伝わった時期です。曹洞宗もそうですが、臨済宗は鎌倉時代に伝わりました。一方、黄檗宗は江戸時代の初期です。その間、四百五十年ほど、日本の臨済宗は南宋から伝わったのをまっすぐと長くやっていたのに、中国では時代が宋から元、明になって、さらに清へと変遷し、いろいろ

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師

枘野 高祖・道元禅師 太祖・瑩山禅師



嶋善昭

嶋善昭

曹洞宗 徳雄山建功寺住職／庭園デザイナー／多摩美術大学環境デザイン学科教授

枘野俊明氏

ますの・しゅんみょう。1953(昭和28)年神奈川県横浜市生まれ。玉川大学農学部農学科卒業後、大本山總持寺にて雲水として修行。1985(昭和60)年に徳雄山建功寺副住職、2001(平成13)年に同寺第18世住職に。また、造園家の齊藤勝雄氏に師事し、庭園デザイナーとしても活躍。代表作に水戸・祇園寺庭園、東京・カナダ大使館など。1998(平成10)年から多摩美術大学環境デザイン学科教授も務める。『禅が教えてくれる 美しい人をつくる「所作」の基本』(幻冬舎)、『美しく、心地よく、生きる』(PHP文庫)など著書多数。

石川県ではやはり曹洞宗に馴染みがありますね。曹洞宗の隆盛を築いたとされる瑩山禅師ゆかりの大乗寺(金沢市)、永光寺(羽咋市)、總持寺祖院(輪島市)が今もあります。

枘野 現代社会はあらゆるもの動きが速く、異常なくらいに情報化されています。非常に高い時代になってしまっているのです。そういう中で、いかに心を穏やかに保つかということが、本当に重要になってきます。

枘野 「経営」とは「真理を営む」と

枘野 「歩歩是道場」とは